

サステナブル 未来予想図

～こんな地球で暮らしたい・
安全安心な社会のカタチ～



サステナブル 未来予想図

～こんな地球で暮らしたい・
安全安心な社会のカタチ～



みなさんは、10年後、30年後、あるいはもっと先の未来に、どのような地球で暮らしていきたいと思いますか。さまざまな危険や災害から身を守って“安全”に暮らせる社会を構築していくことは、人が生きるために必要不可欠です。また、心地よく暮らしていくためには、信頼できる人間関係を築いたり、快適な家でリラックスしたりといった“安心”も重要です。

人々がこの地球で暮らしていくサステナブルな未来に向け、そのキーワードの一つである「安全安心な社会」の実現につながるアイデアを提案してください。

「NRI 学生小論文コンテスト」とは？

日本と世界の未来について、次代を担う若い学生のみなさんに考える機会を持っていただくための論文コンテストです。

NRIグループは「未来社会創発企業」として、新しい社会のパラダイムを洞察し、その実現を担うとともに、日本のみならずアジア、そして世界の発展に貢献することを目指しています。

この一環として、これからの社会を担う若い世代のみなさんに、日本や世界の未来に目を向け、自分たちが何をなすべきかを真剣に考え、その熱い思いを発表する場を持っていただこうと、2006年から毎年「NRI 学生小論文コンテスト」を開催しています。

毎年、学生のみさんから、明るい未来に向けた斬新で力強い提案をいただいています。

NRIは、コンテストで入賞した若い世代からの提案を広く社会に公表することによって、若者を含む幅広い世代が、日本の未来を考えるきっかけにしていきたい、と考えています。

コンテストへの想い

この地球で暮らしていくサステナブルな未来に向けた、安全安心な社会を実現するアイデアを、楽しみにしています

2006年に開始した「NRI学生小論文コンテスト」は、今回で16回目となりました。このように長く本コンテストを続けて来ることができたのは、論文を応募してくださる学生のみなさんはもちろんのこと、学校関係者、審査委員など、多くの方々のご協力のお陰であると感謝しております。ここに改めて深く御礼申し上げます。

私たちの暮らすこの地球には今、経済活動や消費活動による大きな負荷がかかっています。そのうえ、いまだ終わりの見えないコロナ禍によって、これまでの“当たり前”が見直されて生活様式や働き方なども大きく変化し、私たちは「安全安心な社会」がどれだけ大切なのかを、日々実感させられています。

次世代を担う高校生・大学生のみなさんが、この地球に暮らし続けていくサステナブルな未来に向けて、新しい着眼点から、「安全安心な社会のカたち」を提案してくださることを期待しています。

NRIグループにおいても、安全安心な社会の実現に貢献していけるよう、今後の事業活動を行っていきたいと考えています。

NRI代表取締役会長兼社長

此本 臣吾



これまでの募集テーマ

大学生の部・留学生の部 | 高校生の部

- 第1回(2006) ユビキタスネット時代のITと人間の関わり | モチベーションクライシス
- 第2回(2007) 日本が世界と共生するには | 日本から見た世界 世界から見た日本
- 第3回(2008) 日本の「第三の開国」に向けて | 2015年の日本人像・家族像
- 第4回(2009) ITを活用した日本発ビジネス | 日本はコレで世界一になる!
- 第5回(2010) 日本が世界のためにできること | 世界のなかで日本の魅力を高めるには
- 第6回(2011) 2025年、新しい“日本型”社会の提案 | 2025年の日本を担うわたしの夢
- 第7回(2012) 自分たちの子ども世代に創り伝えたい社会
あるべき社会の姿と私たちの挑戦 | 私たちがすべきこと、できること、やりたいこと
- 第8回(2013) あなたが考える“わくわく社会”を描いてください
- 第9回(2014) 創りたい未来社会 —あなたの夢とこだわり
- 第10回(2015) 2030年に向けて —「守るもの」、「壊すもの」、「創るもの」
- 第11回(2016) Share the Next Values! 世界を変える、新たな挑戦
- 第12回(2017) Share the Next Values! 地方の課題をイノベーションで解決する。
サブテーマ ①震災復興 ②地方創生 ③地方の産業改革
- 第13回(2018) 2030年の未来社会を創るイノベーションとは —世界に示す日本の底力!
- 第14回(2019) サステナブル未来予想図 ~豊かで活力ある未来のために~
- 第15回(2020) サステナブル未来予想図 ~最適な社会の構築に向けて~



これまでの受賞論文記録集

コンテストへの想い——特別審査委員

ジャーナリスト

池上 彰 さん

「自らの問題意識を深め、考えをまとめて発信するチャンスと捉えて」

「NRI学生小論文コンテスト」の審査に携わるのは今回で16回目となります。毎年優れた論文やプレゼンテーションを拝見し、順位づけに悩むと同時に、若いみなさんの考え方に触れ、「若い人たちはこういう問題意識を持って、このように論理を展開させるのか」と私自身、大変勉強になっています。

自らの考えを論文にまとめ、それを多くの人に知ってもらうのはとても意義のあることです。本コンテストを、自らの考えを発信するチャンスと捉え、ぜひ論文執筆にチャレンジしてください。



池上 彰(いけがみ あきら)——ジャーナリスト。名城大学教授、東京工業大学特命教授、東京大学客員教授など9つの大学で教える。1973年NHKに記者として入局し、1994年から「週刊こどもニュース」の“お父さん”を11年間務め、2005年独立。著書に『伝える力』『池上彰の現代史授業——21世紀を生きる若い人たちへ シリーズ』『知らないと恥をかく世界の大問題』『池上彰教授の東工大講義』『大世界史』『考える力がつく本』『考える力と情報力が身につく 新聞の読み方』『社会に出るあなたに伝えたい なぜ、読解力が必要なのか?』『池上彰の世界の見方』『なぜ世界を知るべきなのか』など多数。

ノンフィクションライター

最相 葉月 さん

「広い視野と自由な発想で課題を見つけ、それぞれの未来を描いて」

今回のテーマは「サステナブル未来予想図 ～こんな地球で暮らしたい・安全安心な社会のカたち～」です。広い視野をもって自らの自由な発想で課題を見つけ、想像力を羽ばたかせてそれぞれの「安全安心な社会のカたち」を描いて欲しいと思います。

自分の考えを論文で表現しようとする若いみなさんの真摯な姿勢には、毎回とても触発されるものがあります。今回もみなさんの柔軟で斬新なアイデアに出会えることを、楽しみにしています。



最相 葉月(さいしょう はづき)——ノンフィクションライター。科学技術と人間の関係性、災害、医療などを中心に取材執筆活動を行う。著書に『絶対音感』(小学館ノンフィクション大賞)『青いバラ』『ビヨンド・エジソン 12人の博士が見つめる未来』『セラピスト』『れるられる』『ナグネ 中国朝鮮族の友と日本』『調べてみよう、書いてみよう』『理系という生き方——東工大講義 生涯を賭けるテーマをいかに選ぶか』、共著『胎児のはなし』など多数。『星新一〇〇一話をつくった人』にて大佛次郎賞、講談社ノンフィクション賞、日本SF大賞、日本推理作家協会賞(評論その他の部門)、星雲賞(ノンフィクション部門)受賞。

テーマ詳細

大学生の部、高校生の部 募集テーマ

サステナブル 未来予想図

～こんな地球で暮らしたい・
安全安心な社会のカタチ～



みなさんは、10年後、30年後、あるいはもっと先の未来に、どのような地球で暮らしたいと思いますか。

人々が安心を感じ、安全に過ごせる社会には、どのようなことが必要だと考えますか。

2020年は、新型コロナウイルスにより、私たちの生活は一変しました。みなさんも一時は学校に行けなくなったり、旅行や外出を控えたりされていたのではないのでしょうか。目に見えないウイルスへの対策が必要となった社会では、それまでの“当たり前”が見直され、生活様式や働き方などが大きく変化しました。それに伴って、Web会議ツールや非接触型決済システム、食事宅配サービスなど、人々がお互いの安全を守りながら過ごすことに役立つサービスも、広く浸透しました。

さまざまな危険や災害から身を守って“安全”に暮らせる社会を構築していくことは、人が生きるために必要不可欠です。それだけではなく、人が心地よく暮らしていくためには、信頼できる人間関係を築いたり、快適な家でリラックスしたりといった、“安心”も重要です。

では、安全安心な社会の実現に向けて、近年話題になっているトピックスにはどのようなものがあるのでしょうか。いくつか例を挙げてみましょう。

- 地球規模では、温室効果ガス削減、省資源化、再生可能エネルギーの利用促進、平和な社会の創造 など
- 身近な生活の中では、地域活性化、食品ロス削減、健康増進、異文化理解、働き方の多様化、人との絆の強化 など

このように枚挙にいとまがありませんが、世界各国の連携や助け合い、AI（人工知能）をはじめとする先進技術の活用、個々人の意識の高まりや行動変容などにより、日々改善に向かっていくものもありますね。10年後には、思いもよらない解決方法が見つかるかもしれません。

野村総合研究所グループでは、「安全安心社会の共創」をサステナビリティ経営目標の1つに掲げ、さまざまな事業を行っています。例えば、金融関連システムなどの社会インフラの高度化を通じて安全安心な社会の実現に向けて取り組んでいます。

次世代を担うみなさんは、どのような地球の未来を描いているのでしょうか。柔軟な発想で、安全安心な社会の未来予想図と、その実現に向けた取り組みを考えてみてください。日本や世界、地球のより良い未来へとつながるアイデアを、お待ちしております。

募集要項

「サステナブル未来予想図 ～こんな地球で暮らしたい・安全安心な社会のカたち～」
未来を拓く、オリジナリティあふれる提案をお待ちしています

大学生の部

募集期間

2021年7月1日～9月3日

応募資格

日本国内の大学院、大学、短大、高等専門学校（4～5年）に在籍している学生で、2021年7月1日時点で27歳以下の、個人またはペア（ペアの相手は、「大学生の部」「高校生の部」いずれかの応募資格者であること）。

字数

4,500～5,000字 ＊別途400字程度の要約を添付

賞

[大賞1作品] 賞金50万円
[優秀賞1作品] 賞金25万円
[留学賞特別賞1作品] 賞金25万円
[敢闘賞 数作品] 賞金10万円
[奨励賞 数作品] 賞金5万円

高校生の部

募集期間

2021年7月1日～9月10日

応募資格

日本国内の高校、高等専門学校（1～3年）に在籍している学生で、2021年7月1日時点で20歳以下の、個人またはペア（ペアの相手は、「高校生の部」の応募資格者であること）。

字数

2,500～3,000字 ＊別途200字程度の要約を添付

賞

[大賞1作品] 賞金30万円
[優秀賞2作品] 賞金15万円
[敢闘賞 数作品] 賞金6万円
[奨励賞 数作品] 賞金3万円

〈応募に際しての注意事項〉

- ・応募論文は、日本語で執筆された、自作で未発表のものに限る。
- ・他の著作物を引用する場合は、その箇所を明記するとともに、論文の最後に出所を記載する。
- ・図表中の文字、図表タイトル、注釈、参考文献一覧は、字数に含まない。図表の数は5点以内とする。
- ・他のコンテストなどに同内容の論文を多重応募することは禁止とする。
- ・入賞した論文の著作権は、野村総合研究所に帰属する。

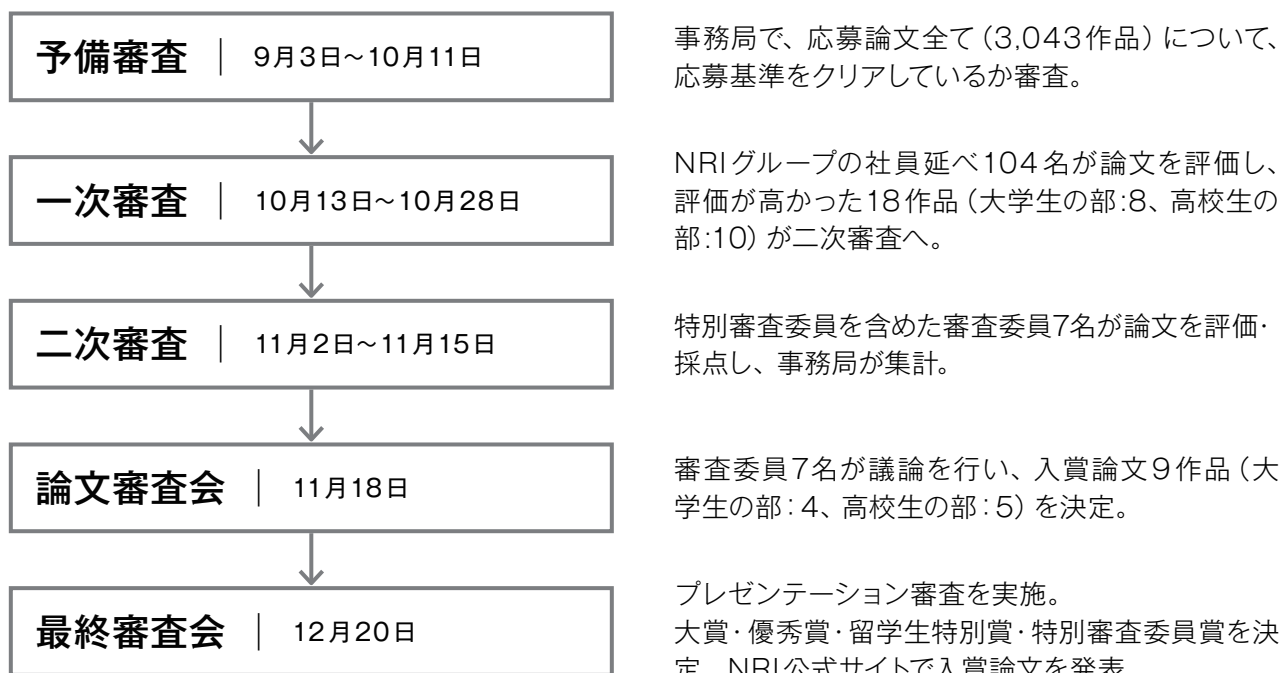
審査のプロセス

入賞論文は、予備審査→一次審査→二次審査→論文審査会→最終審査会という5つのステップを経て決定しました。

最終審査会では、プレゼンテーション審査を実施

- 論文審査会を通過した入賞者には、最終審査会において6分間のプレゼンテーションを行ってもらいました。
- 各賞は、最終審査会におけるプレゼンテーションで確定しました。

最終審査会以外は、どの審査においても、応募者の学校名、氏名などの属性を秘匿したうえで、厳正に行っています。また、評価が偏らないように、1つ1つの応募作品を複数の審査委員が評価しています。



〈論文審査の評価基準〉

◆ 問題発見力

- ・ 独自の視点で問題の提起がなされているか
- ・ 論点に対する切り口の鋭さ、考察の深さ
- ・ 具体例、数値を使用するなど論点のわかりやすさ

◆ 問題解決力

- ・ 提案や解決策のスケールの雄大さ、視野の広さ
- ・ 提案や解決策の独自性・実現性

◆ 文章力

- ・ 論文構成のわかりやすさ
- ・ 文法の正しさ、誤字・脱字の少なさ

◆ 斬新／大胆な発想力

- ・ 実現性に乏しくても、発想が斬新で大胆なもの
- ・ 多くの人に夢や希望を与えるもの

◆ 上記には該当しない評価点（これまでに評価された点の例）

- ・ テーマや提案内容に対する熱い想い
- ・ 独自の調査・取材
- ・ 体験談

入賞作品

入賞者のみなさん、おめでとうございます！

大学生の部

大賞

ひよっこドクターのほけんしつ ～Student Doctorたちによる地域住民の健康相談の場～

中島 寛音 新潟大学 医学部3年

優秀賞

新しい教育の形を世界へ

上原 綾乃 嘉悦大学 経営経済学部2年

特別審査 委員賞

セルフサービスフードバンク ～新しい食品リサイクルのかたち～

張 穎慧 東北大学 大学院 教育学研究科2年

留学生特別賞

留学生から見る老舗旅館に対する改善策の提案及び観光まちづくり

尹 思源 高崎経済大学 地域政策学部3年

金 秀玟 高崎経済大学 地域政策学部3年（共著）

高校生の部

大賞

～バングラデシュから始まるエシカルファッションの時代～
縫製工房 Clothes Mom

平松 明華 北海道 函館白百合学園高等学校2年

優秀賞

日本を第二の故郷に ～未来の人材にクラウドファンディング～

篠原 瑞希 埼玉県 本庄東高等学校2年

優秀賞

世界の女性をつなぐ「Soap-Loopプロジェクト」 —SRHRの実現へ—

原 まりこ 埼玉県立浦和第一女子高等学校2年

特別審査 委員賞

自然災害から笑顔を守る復旧・復興の新しいカタチ

生方 智絵 東京都 広尾学園高等学校1年

特別審査 委員賞

人間、う〇ちくれるってよ by分解者

深尾 優子 岐阜県立岐阜高等学校2年

入賞作品

大学生の部 敢闘賞・奨励賞

多拠点デジタル縄文時代

敢闘賞

北川 桜子 東北大学 工学部2年

築瀬 美智子 千葉商科大学 政策情報学部3年（共著）

ペットボトル許すまじ

敢闘賞

村田 拓真 早稲田大学 商学部4年

3H création city

敢闘賞

～Hopeful × Habitable × Harmony～

安田 真雪 立命館アジア太平洋大学 アジア太平洋学部3年

塩飽 悠乃 立命館アジア太平洋大学 アジア太平洋学部3年（共著）

「安全基地」の提供によって自殺のない社会を創る

敢闘賞

山本 康太郎 大阪大学 工学部4年

分散型ホテル普及による

奨励賞

地方都市の人口減少克服に向けた提案

佐野 寿来 獨協大学 経済学部4年

おもいでのもりプロジェクト

奨励賞

武智 香奈 慶應義塾大学 総合政策学部3年

佐藤 紺衣 慶應義塾大学 環境情報学部3年（共著）

高校生の部 敢闘賞・奨励賞

廃棄されてしまう規格外野菜を

敢闘賞

食べ物に困っている札幌の子どもに届けられるか

小川 莉功 北海道 立命館慶祥高等学校3年

『PROJECT つよい子』の提案

敢闘賞

～こどもの防災意識を高めるには～

中野 愛菜 宮城県 気仙沼高等学校3年

1人1人に寄り添えるサポートを

敢闘賞

～ヤングケアラー支援の在り方～

中村 真唯 東京都 中央大学高等学校3年

日本を変える水力発電「雨どい楽水プロジェクト」

敢闘賞

峯山 ひとみ 埼玉県 狭山ヶ丘高等学校2年

平和な世界

敢闘賞

村井 志織 福岡県立筑紫丘高等学校2年

いつも近くに、食品ロス

奨励賞

～安全安心な社会を目指して食品ロスをへらす～

小島 恵奈 埼玉県 本庄東高等学校2年

Eco Eatプロジェクト

奨励賞

～バーチャルウォーターから考える新しい食生活～

佐藤 雅哉 東京都立西高等学校1年

デジタル化する社会で虐待撲滅を目指す

奨励賞

「たすける君」で子供たちをたすけよう

副田 詩歩 福岡県立修猷館高等学校2年

廃棄枠取引の導入による食品廃棄削減

奨励賞

～発展途上国の栄養状態を改善するために～

高橋 佑奈 群馬県立中央中等教育学校5年

新たな防災アプリ「Protect」

奨励賞

～1人でも多くの人を救うために～

武内 萌花 埼玉県 狭山ヶ丘高等学校1年

高齢者のためのスマートシティ

奨励賞

「ホスピタリティタウン」

辰己 芙優 東京都 広尾学園高等学校1年

子供たちの将来を救う

奨励賞

～小中学校への通信制とeスクールの導入～

谷 帆樺 福岡県立筑紫丘高等学校2年

悩める若者を自分なりの道へと導く

奨励賞

マッチングアプリ「My Way」

中岡 星穂 東京都 広尾学園高等学校1年

災害を活用しよう

奨励賞

—地球温暖化が進む世界で安心に暮らすために—

西村 七菜 東京都 中央大学高等学校3年

外国人児童生徒の未来

奨励賞

～自分らしく、楽しいスクールライフを～

山本 絵美子 埼玉県 本庄東高等学校1年

応募概況

「NRI学生小論文コンテスト2021」の応募論文数と入賞論文数は、以下のとおりです。

応募論文数 ()内は留学生

大学生の部	高校生の部
265 (26)	2,778
総数 3,043	

入賞論文数

		大学生の部	高校生の部	計
最終審査会 参加者	大賞	1	1	2
	優秀賞	1	2	3
	特別審査委員賞	1	2	3
	留学生特別賞	1		1
敢闘賞		4	5	9
奨励賞		2	10	12
計		10	20	30



論文審査会



最終審査会